宮崎「橋の日」実行委員会◎宮崎市

心の架け橋、夢の架け橋という言葉もあるように、橋にはロマンがある。

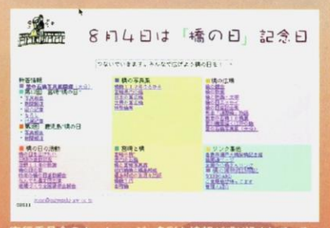
橋にロマンを。

平成10年の橋の日記念イベントより。橋橋には約300名の参加者が集まった。

（左・右）河川敷の清掃、河川浄化のための稚魚放流は橋の日の恒例行事。

インタ　ネットに興味がある人は、ホムペ　ジアドレス「http://www.cmp-lab.or.jp./~hasinohi」にアクセスしてみよう。「8月4日は『橋の日』記念日」というタイトルとともに、「橋」をテーマにした多くのインデックスが画面に現れてくる。

日本 世界の名橋写真集、橋の歴史、映画 文学と橋、橋をテーマにしたエッセー、橋に関するホームペ　ジのリンク集、そしてこのペ　ジを主催する「宮崎『橋の日』実行委員会」の活動報告。橋に関する情報がふんだんに盛り込まれており、「橋の日」が何かを知らない人でも、十分に楽しめる内容になっている。



実行委員会のホームページ。多彩な情報が盛り込まれている。

「ホームペ　ジをご覧になる方が表紙の割に内容が不十分だと感じたり、情報が古いと思われることがないように、私たちのページは、情報を盛り沢山にし、新しい情報も絶えず入れるようにしています。実行委員会の活動を知ってもらうのと同時に、私たちが提唱する「橋の日」を全国にアピールしたいですからね」と話すのは、「宮崎『橋の日』実行委員会」事務局の鶴羽浩さん。平成9年に開設したホームページは徐々に訪問者が増えるようになり、最近では1日20件ほどのアクセスがあるという。

＊　＊　＊

8月4日（ハシ）を「橋の日」とし、人々の生活や文化に関わりを持つ橋や河川に感謝する日にしよう――。こうした思いから昭和61年にスタートした橋の

「河は市民にとって、大きな財産。さらに橋は街と街、人と人を結ぶ大切なコミュニケーションの場になる」

日運動。運動を提唱したのは、実行委員の　人で、現在、鹿児島に在住する湯浅利彦さん。

湯浅さんは「河は市民にとって、大きな財産。さらに橋は街と街、人と人を結ぶ大切なコミュニケ　ションの場になる」と、延岡市 五ヶ瀬川にかかる安賀田橋で、橋と河川の清掃を市民らと共に実施した。

これが始まりになって、提唱者の湯浅さんと現副会長　横山忠夫さんが発起人となり、全国へ橋の日を広げるには、県都宮崎市からの情報発信が必要との思いから、翌62年に橘橋に集まり、河川敷の清掃の他、記念植樹、橋についての講話、メッセ　ジをつけた風船上げなどの第1回の橋の日記念イベントを開催する 。

「普段橋と言えば、道路の延長、道と道をつなぐものといった機能面から捉えられることが多い。でもそれだけでは寂しい。橋があることで人と人が出会い、交流し、町の歴史や風景が形づくられてきた。心の架け橋、夢の架け橋という言葉もあるように、橋にはロマンがある。そうしたロマンを大切に、橋の持つ多様な顔を見直してみようというのが、橋の日を提唱する目的なのです」

湯浅さんの言葉を補足するかたちで、鶴羽さんは会の趣旨をこう説明してくれた。

橋の日イベントは以後、清掃活動と同時に、稚魚の放流、小学生による橋についての作文朗読、吹奏楽演奏会、コンサ　トと、回を重ねるごとに内容も多彩になり、参加者も増えてくる。

さらに宮崎市と並んで継続的に開催している延岡市を筆頭に、日之影町、日向市、都城市、北方町、門川町、さらに最近では鹿児島市でも橋の日を記念したイベントが行われるようになり、運動の輪は徐々に広がりをみせるようになってきた。

「実行委員会では、橋の日の関連行事の1つとしていろいろな分野の人たちが集まり、橋をテーマにいろいろな話をする『橋の日座談会』という企画もこれまでに開催しています。参加者も小学生から80歳のお年寄りまで幅広いのですが、毎回たくさんの面白い意見や提言が出て、橋に対する潜在的な関心の高さを思い知らされます」（鶴羽さん）

どの町にもあり、誰もが渡ったことがある橋。橋に対して持つイメ　ジはそれぞれ違うだろうが、橋を渡ったときにそこから見える町の景色や、川のせせらぎ、河原で遊んだ思い出などはそれぞれの心の中に1つの風景として残っているはずだ。橋の日運動が徐々に広がりをみせてきたのは、そうした人々の心へ呼びかける共通の何かがあるからだろう。

＊　＊　＊

平成11年で発足13年目となる実行委員会。ここ数年の新たな取り組みとしては、初代橘橋を架けた医師・福島邦成を顕彰する活動を講演会、写真展などを通じて行っていることがある。

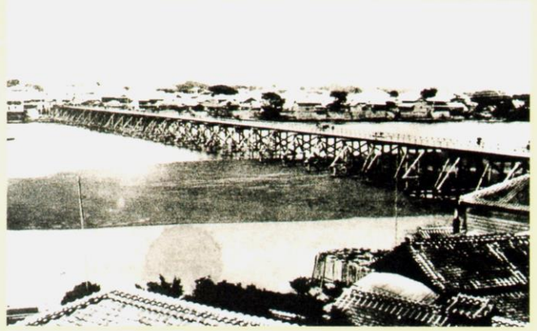
明治6年に宮崎県庁が設置され、市街地としての宮崎の歴史は始まる。が、明治9年に鹿児島県に併合されたことにより発展の勢いは後退していくようになる。そうしたなかで邦成は、再一架橋の必要性を説き、明治13年に独力私財を投じて大淀川に木橋を架け、「橘橋」と命名する。交通、情報の要を得た宮崎は以後、再び発展の道を向かうようになる。

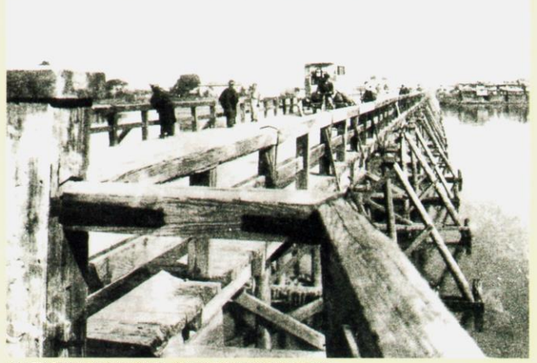
邦成の業績を振り返ることは、宮崎の歴史を振り返ることであり、橋と地域、橋と人々とのつながりを見直すことでもある。橋を通じてふるさとの良さを再発見してもらいたいという、会のもうつの願いがそこに込められている。

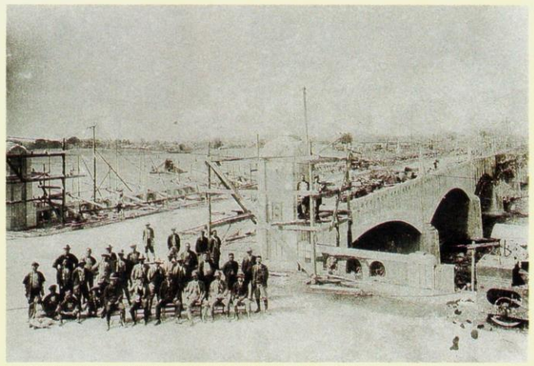
今後は県内はもとより、全国に向けた情報発信を積極的に行っていく予定の実行委員会。夏の夕暮れ、川風に吹かれながら橋の上を歩く親子。そんな風景が再び、あちこちで見られることを願って。

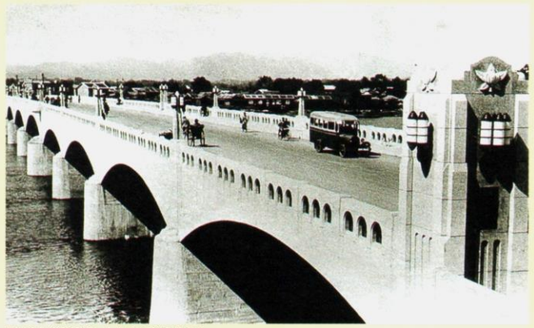
「橋の日座談会」の様子。橋をテーマにした様々な意見が交わされる。

平成10年は写真で橋橋の歴史をたどる「邦成と橋橋118年展」を開催。




（上・下）明治40年当時の橋橋。当時の橋橋は木で造られたもの。


昭和8年当時の橋橋。六代目になるこの橋は初の鉄筋コンクリート構造。


同じく六代目橋橋。人力車の姿も見える。